

# 清瀬市農業振興計画 市民向けアンケート調査 報告書

令和8年3月

# 第1章 アンケート調査実施概要

## 1. 調査目的

本調査は、次期清瀬市農業振興計画を策定するにあたり、市内在住の市民へアンケート調査を実施することにより農業に対する考え等を把握・分析し、計画策定の基礎資料とすべく調査を実施しました。

## 2. 調査の実施概要

|       |  |
|-------|--|
| 調査対象  | 清瀬市内在住の市民(無作為抽出、18歳以上の年齢別人口比率で枚数計算)          |
| 総発送数  | 597通<br>※600通郵送、宛先不明の3件を除いた値。                |
| 調査方法  | 郵送により配付・回収、WEB回収併用                           |
| 調査期間  | 令和7年12月17日～令和8年1月31日                         |
| 有効回収数 | 193件(郵送:115、WEB:78)                          |
| 有効回収率 | 32.3%<br>※有効回収数(193)÷総発送数(597)×100にて算出。      |
| 調査内容  | ○回答者の属性<br>○農産物の購入に関する事<br>○農業とのふれあいに関する事 など |

## 3. 報告書の見方

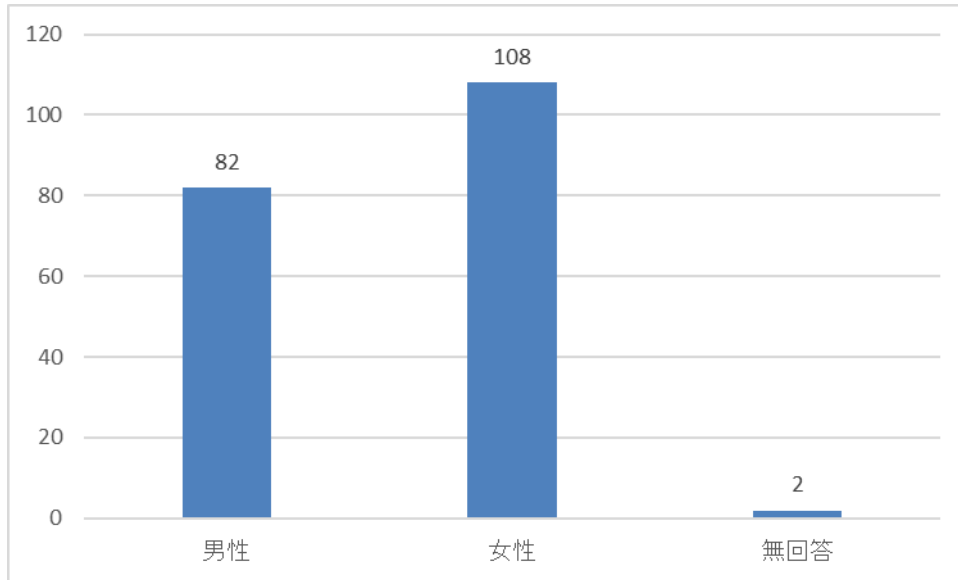
- 1 図表中のnとは、回答者総数(または該当設問での該当者数)のことです。
- 2 本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。

## 第2章 調査結果

### 1 回答者の属性について

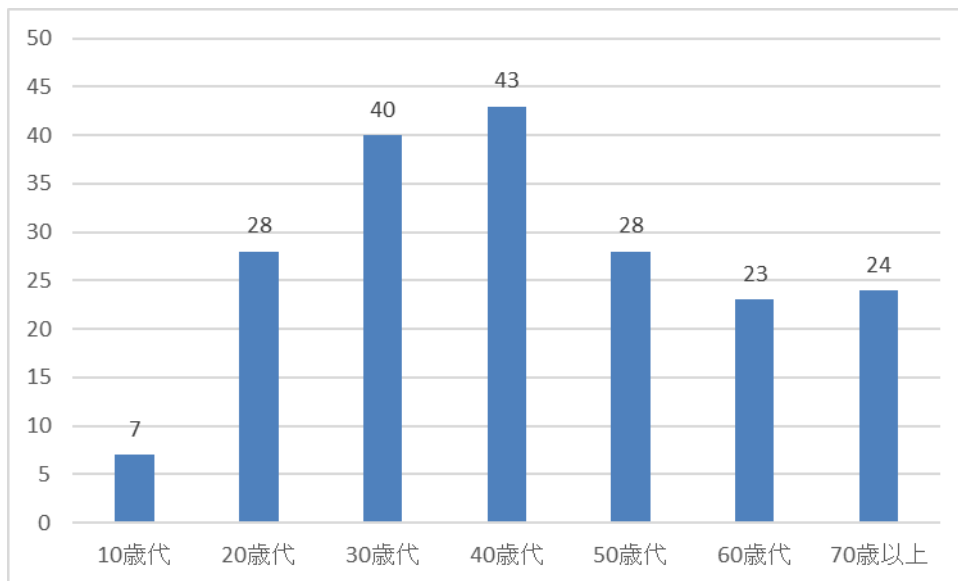
#### Q1. 性別について(n=192)

○性別については、「男性」が82件、「女性」が108件の回答となりました。



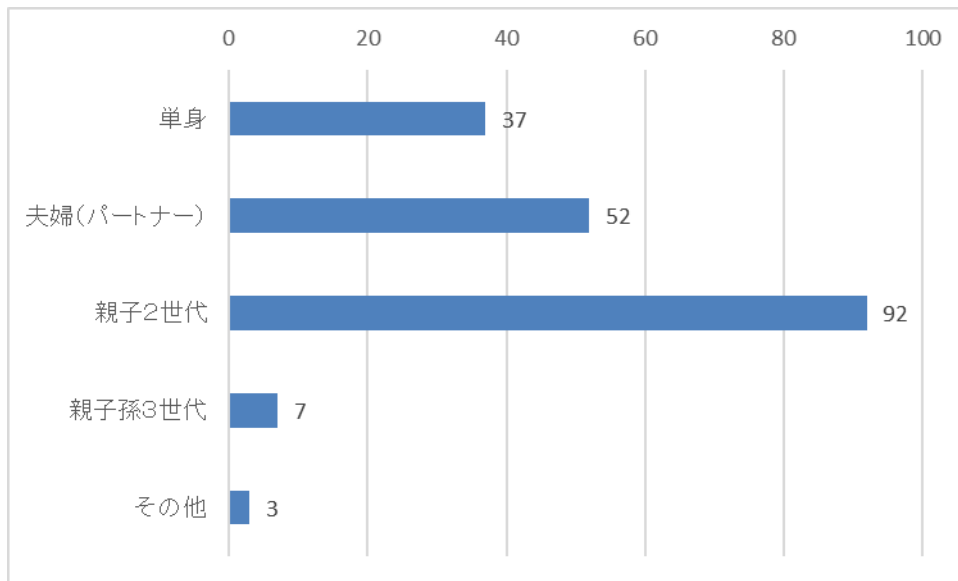
#### Q2. 年齢について(n=193)

○年齢については、40歳代の回答「43人」が最も多く、ついで30歳代の回答が「40人」となりました。10歳代を除き、各年代まんべんなく回答されていることがわかります。



### Q3. 世帯の家族構成について(n=191)

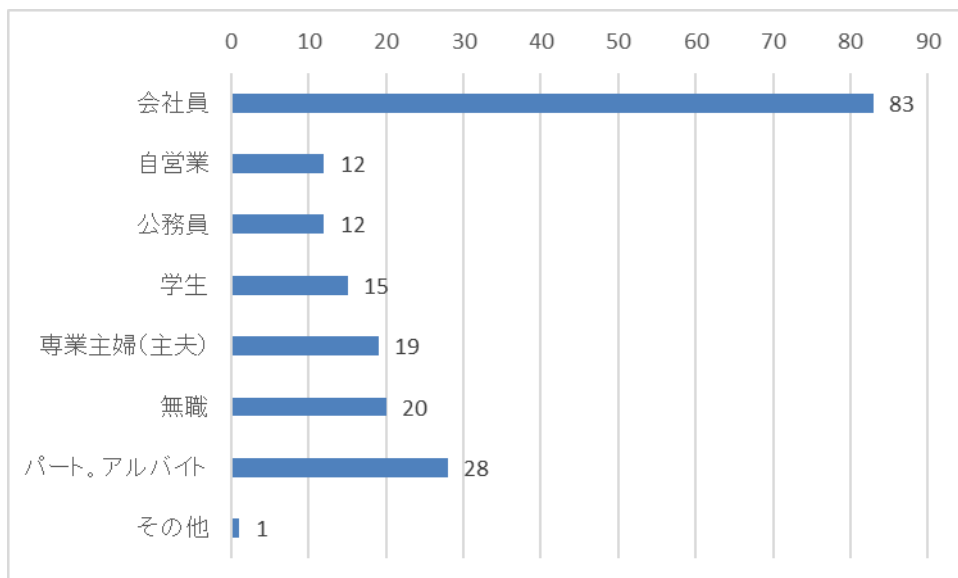
○世帯構成は「親子2世代」(92件)で最も多く、次いで「夫婦(パートナー)」(52件)でした。



その他回答:4世代

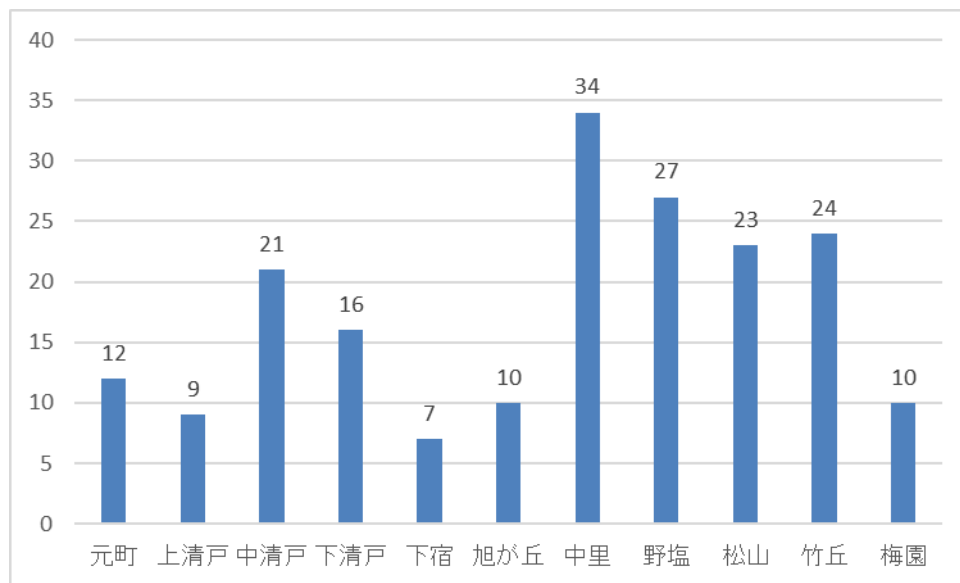
### Q4. 職業を教えてください(n=190)

○職業については、「会社員」(83件)が最も多く、次いで「パート・アルバイト」(28件)となっています。学生の方も15件回答がありました。



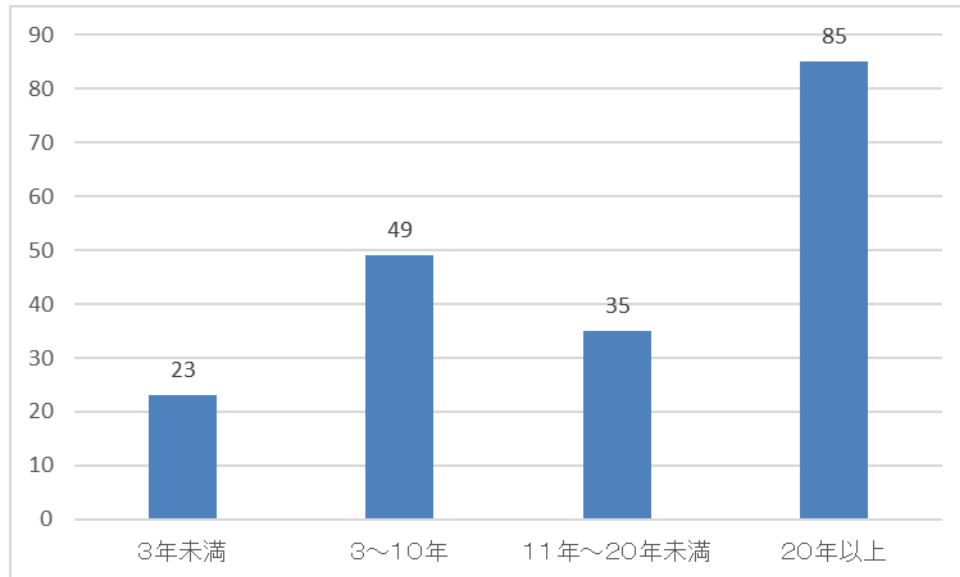
### Q5. 居住地について(n=193)

○居住地については、下表の結果となりました。



### Q6. 清瀬市での居住年数(n=192)

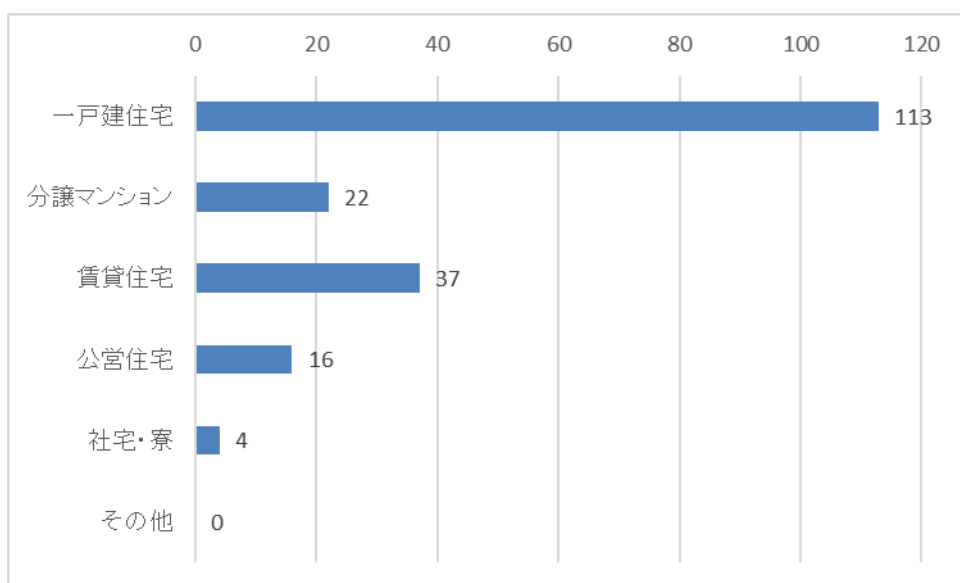
○居住年数については、「20年以上」(85件)が最も高く、次いで「3~10年」(49件)となっています。長年居住している方の回答が多いことがわかります。



### Q7. 住まいの形式について(n=192)

○住まいの形式については、「一戸建て住宅」(113件)が最も高く、次いで「賃貸住宅」(37件)

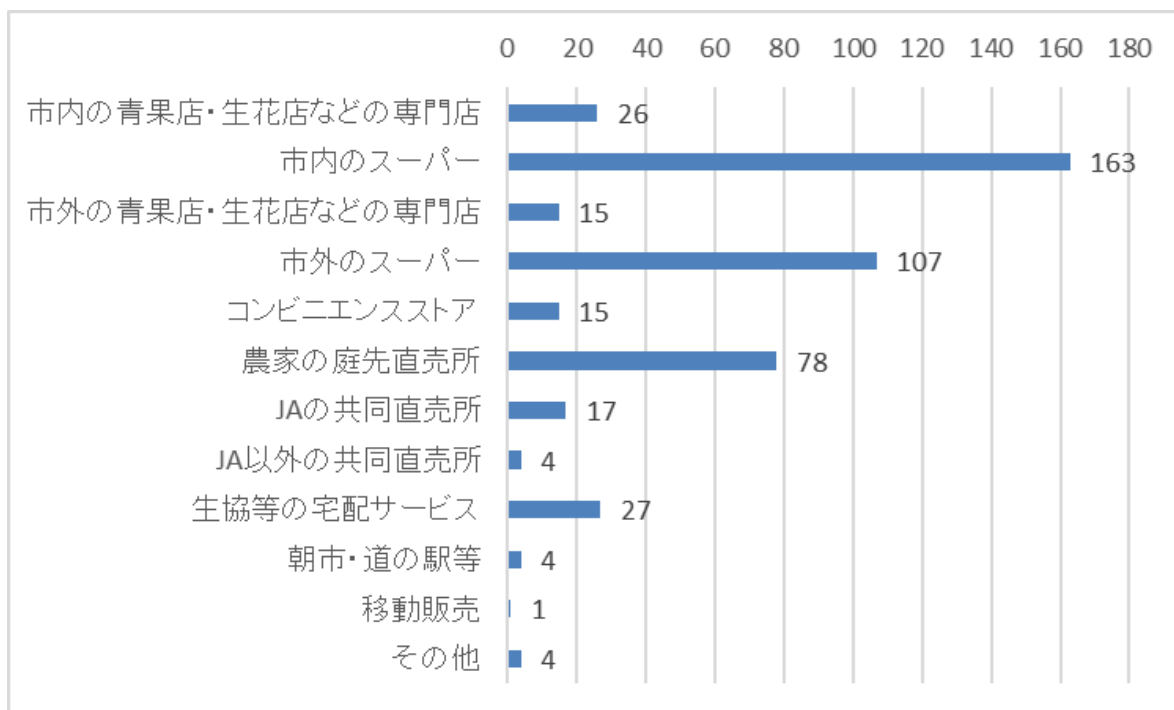
となっています。



## 2 農産物の購入について

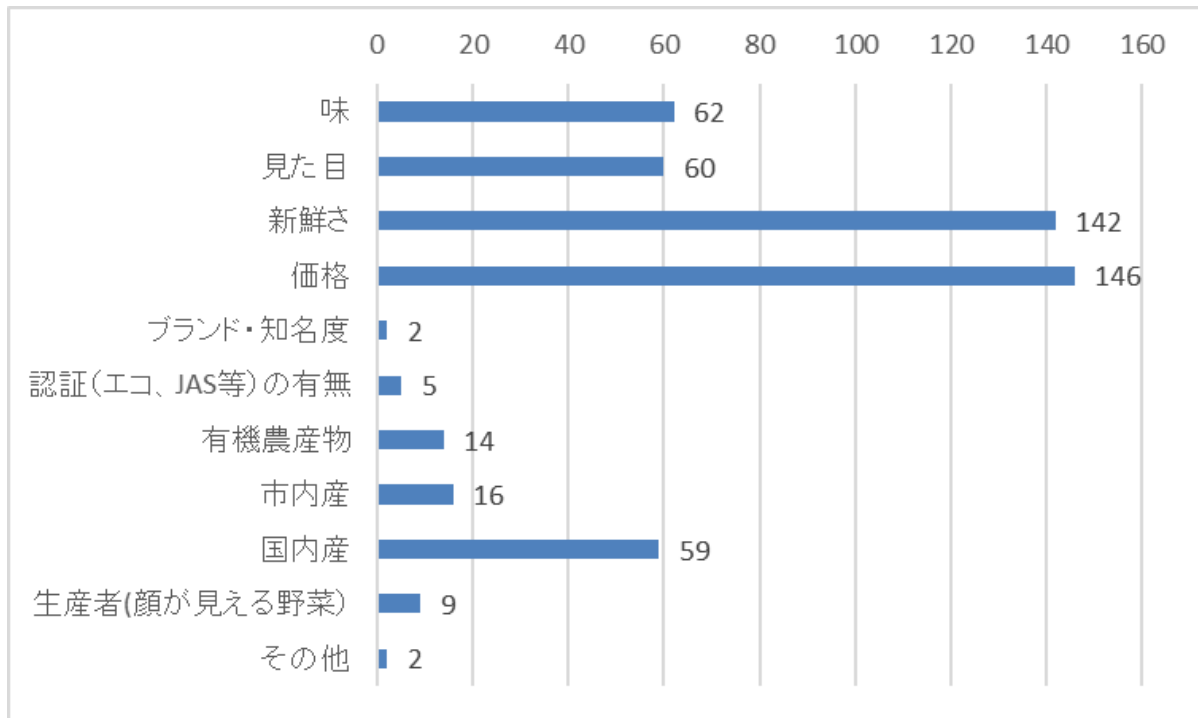
Q8. 普段どこで農産物を購入するか（3つまで選択、n=461）

○農産物の購入については、「市内のスーパー」（163件）が最も多く、ついで「市外のスーパー」（107件）、「農家の庭先直売所」（78件）となっています。



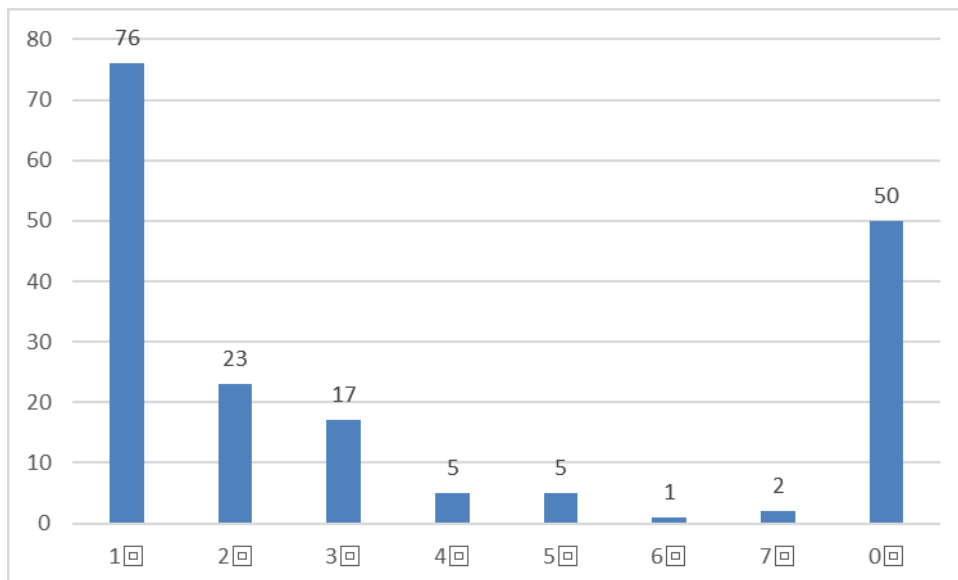
**Q9. 農産物を選ぶときに重視するもの（3つまで回答 n=517）**

○重視するものについては、「価格」（146件）と「新鮮さ」（142件）が多く、ついで「味」「見た目」「国内産」となっています。



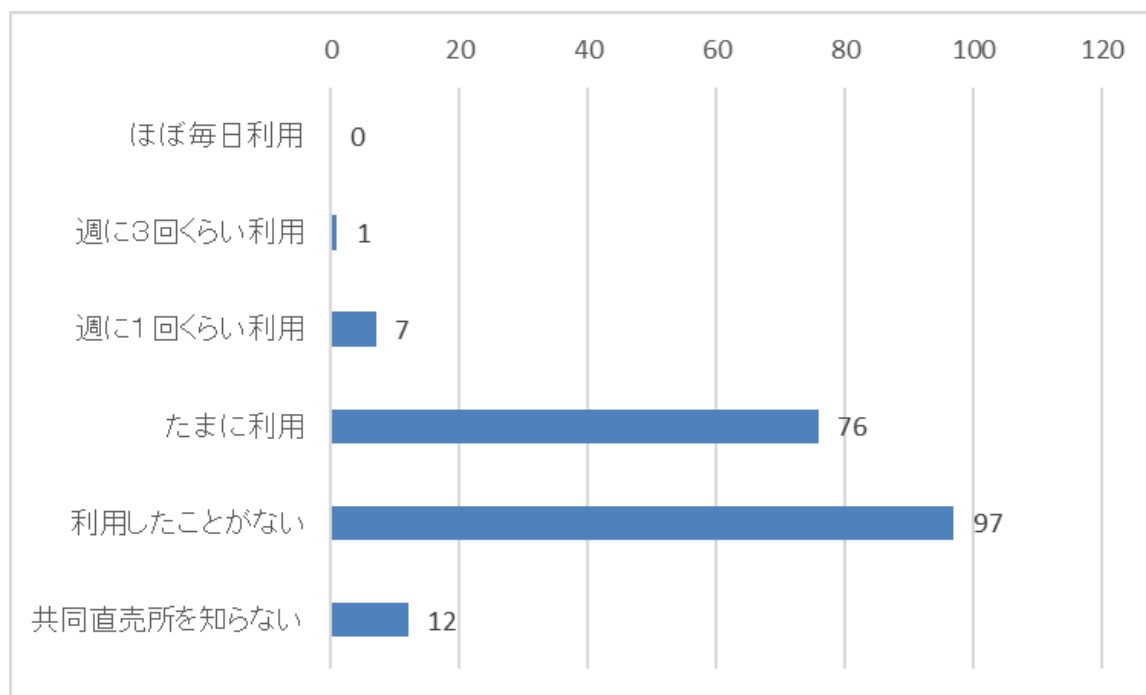
**Q10. 普段の食生活で週に何日市内産農産物を購入しているか（n=179）**

○市内産農産物を購入する頻度については、「週1回」（76件）が最も多く、ついで「週0回」（50件）となりました。7割以上は週1回以上市内産農産物を購入しています。



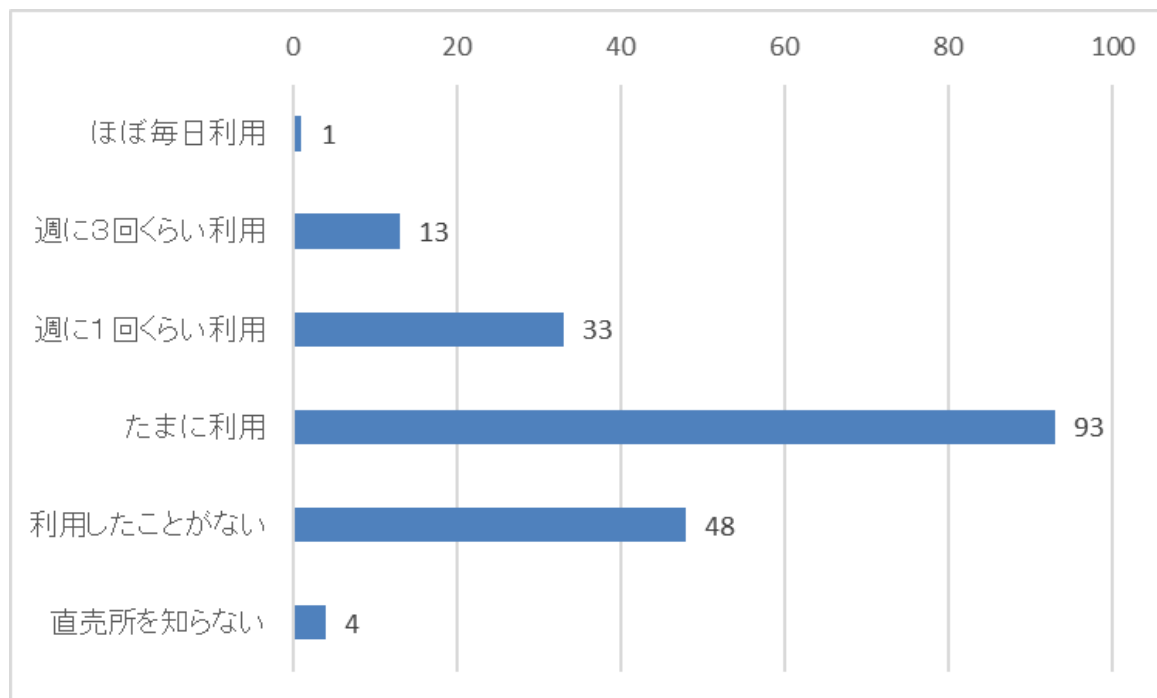
Q11. JA 東京みらい新鮮館（共同直売所）の利用について（n=193）

○JA 東京みらい新鮮館の利用については、「利用したことがない」（97 件）が最も多く、ついで「たまに利用」（76 件）となっています。



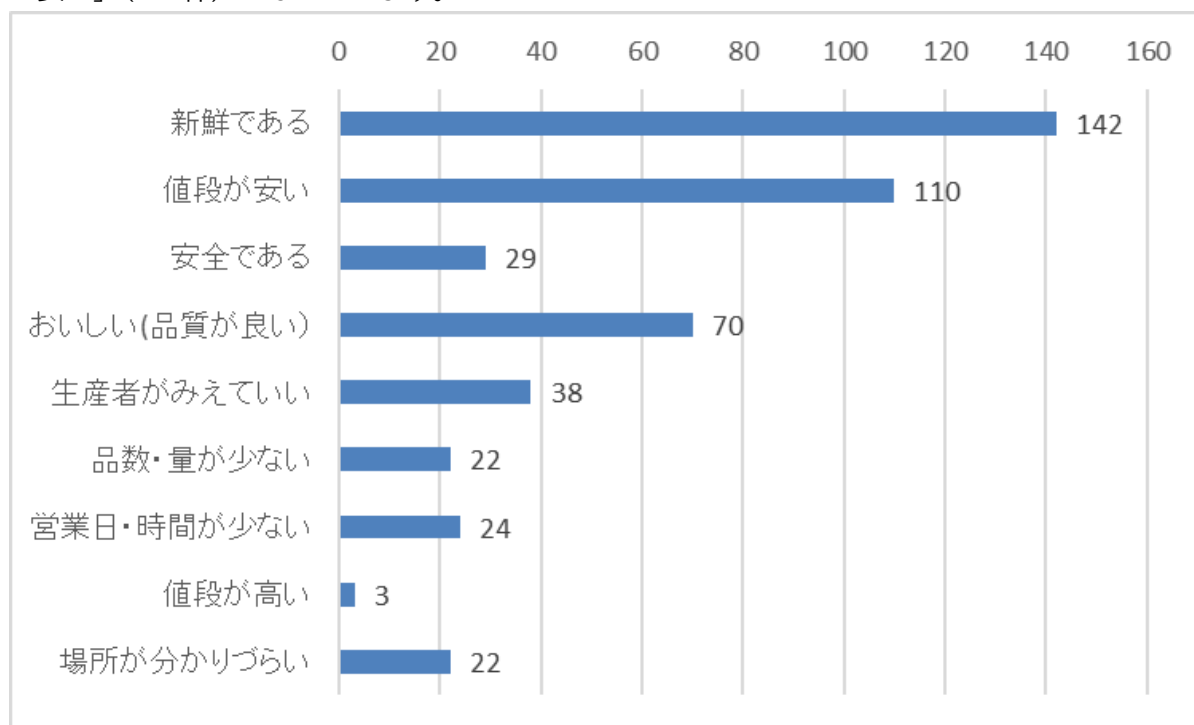
Q12. 市内農家の個人直売所の利用について（n=192）

○個人直売所の利用については、「たまに利用」（93 件）が最も多く、ついで「利用したことがない」（48 件）、「週に1回くらい利用」（33 件）となりました。



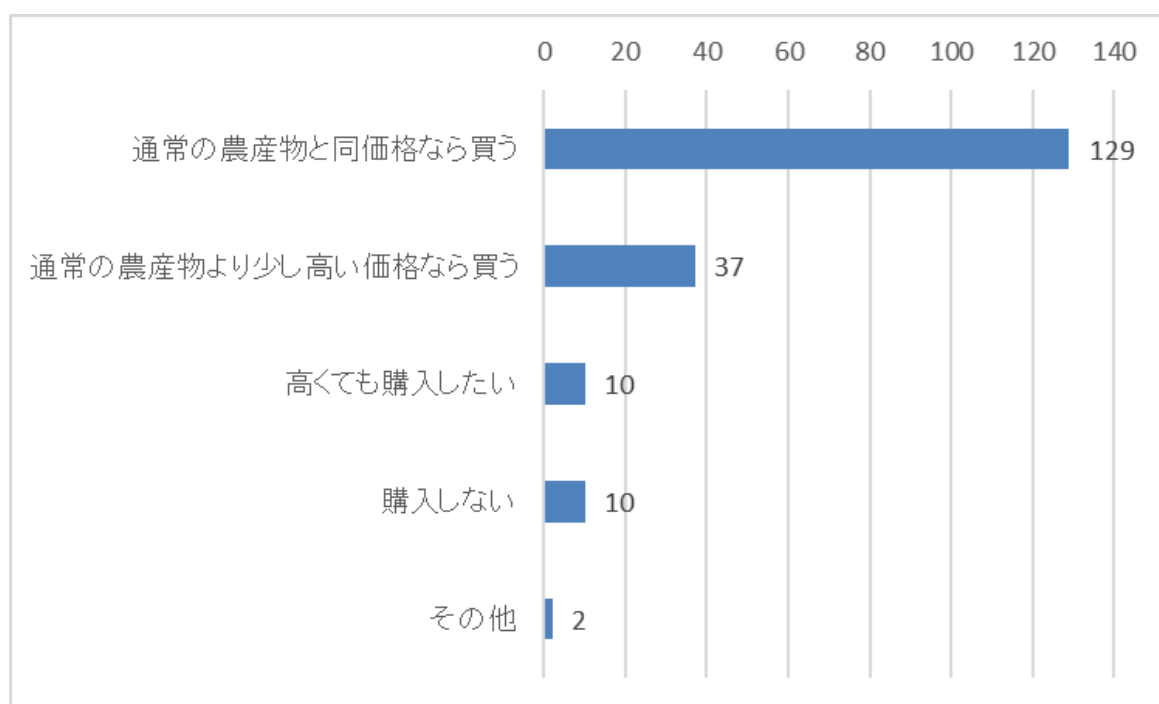
Q13. 農産物直売所について感じていること（3つまで回答 n=411）

○直売所について感じていることについては、「新鮮である」（142件）が最も多く、次いで「値段が安い」（110件）となっています。



Q14. 有機農産物やエコ農産物を購入したいか（n=188）

○有機農産物やエコ農産物を購入したいかについては、「通常の農産物と同価格なら買う」（129件）が最も多い結果となりました。

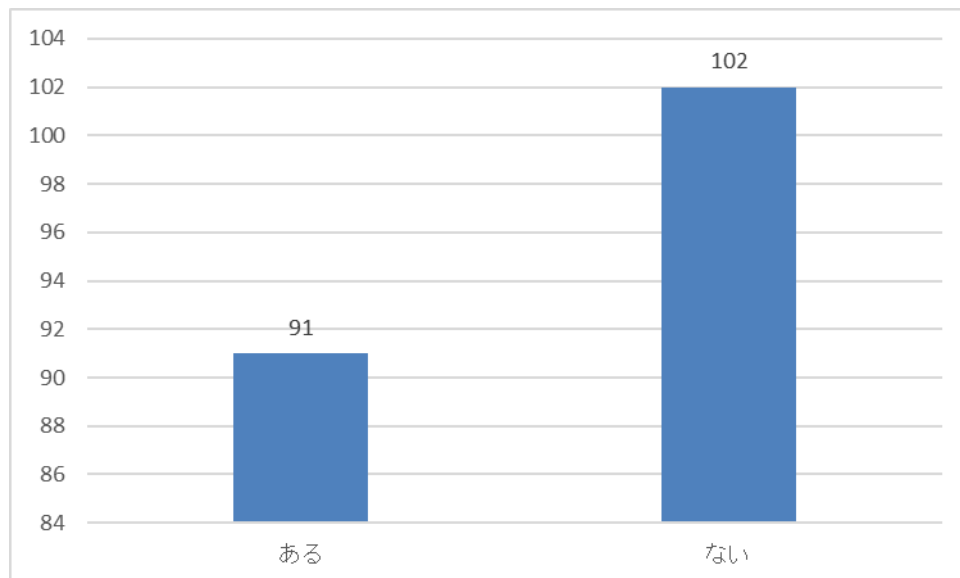


その他回答:衛生上の不安がある

### 3 農業とのふれあいについて

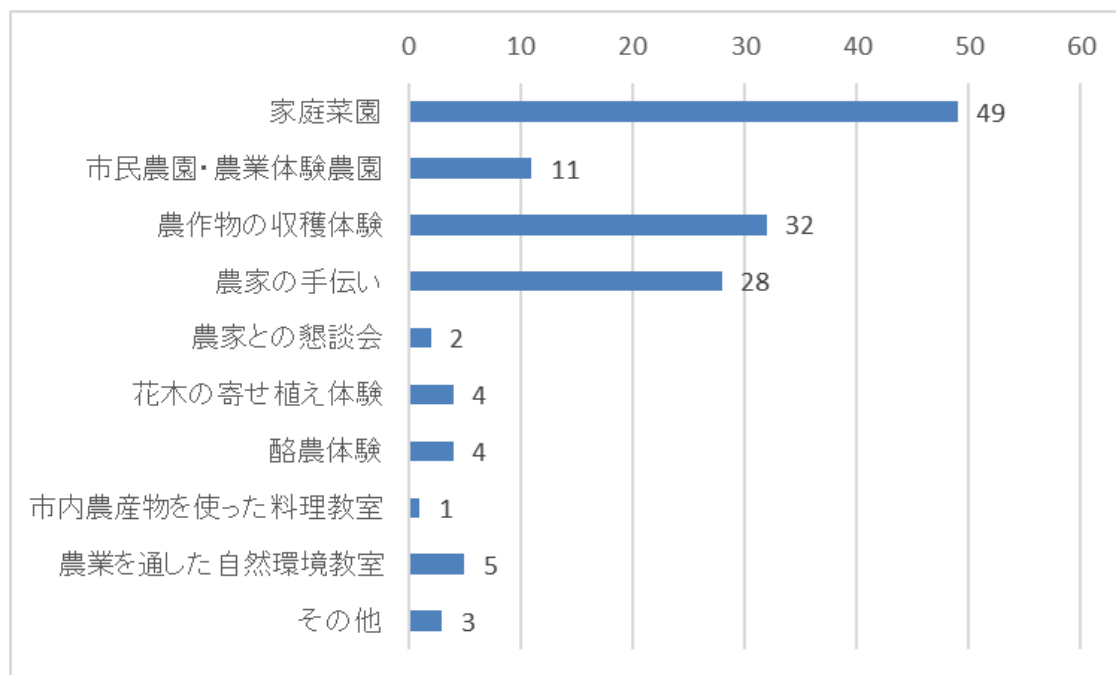
#### Q15. 農業の経験（体験）をしたことがあるか（n=193）

○農業の経験（体験）の有無については、「ある」が91件、「ない」が102件でした。



#### Q16. (Q15であると回答した方) どのような経験（体験）をしたか（3つまで回答 n=139）

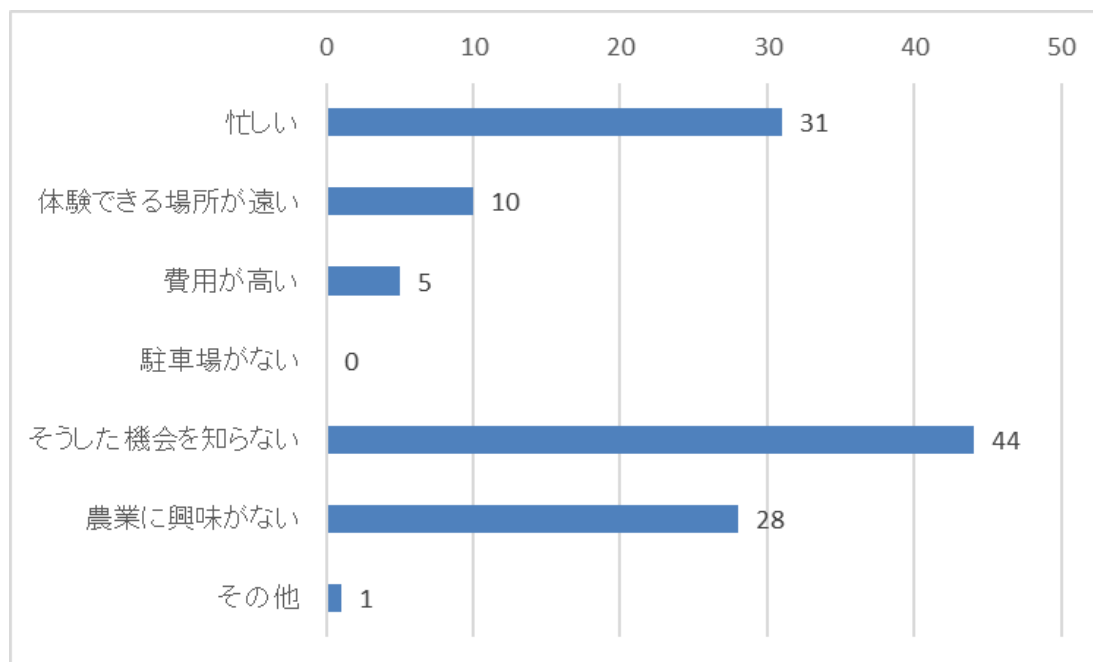
○どのような経験（体験）をしたかについては、「家庭菜園」（49件）が最も多く、ついで「農作物の収穫体験」（32件）「農家の手伝い」（28件）が続きます。



その他回答: 農業系企業に就労、学校の実習

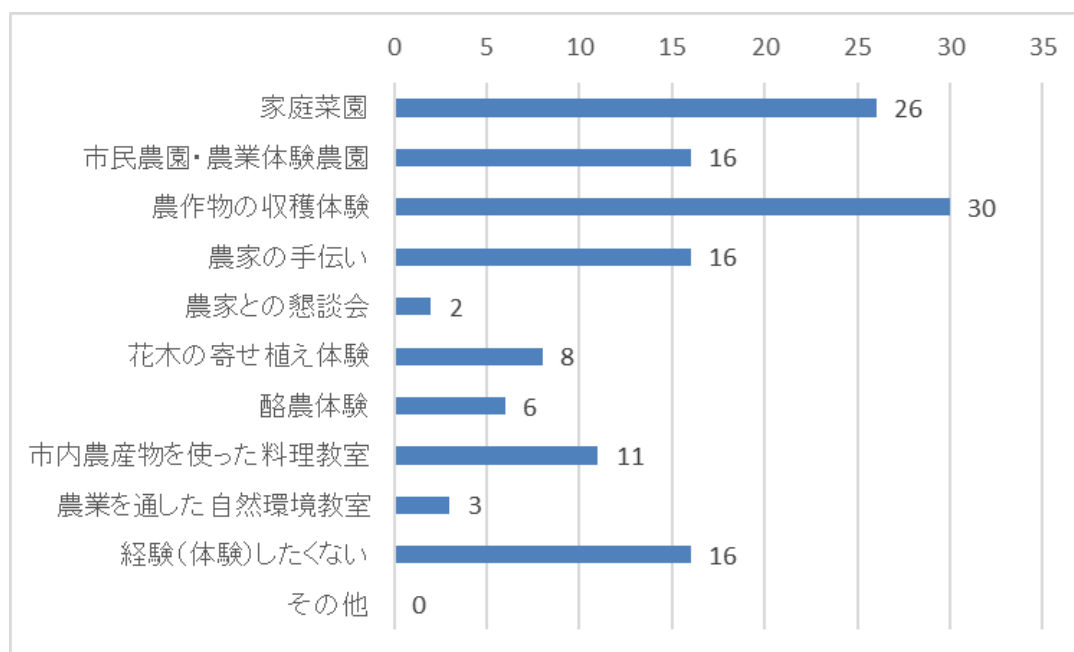
**Q17. (Q15 でないと回答した方) その理由 (3つまで回答 n=119)**

○農業の経験(体験)をしたことがない理由については、「そうした機会を知らない」(44件)が最も高く、ついで「忙しい」(31件)、「農業に興味がない」(28件)となりました。



**Q18. (Q15 でないと回答した方) どんな経験(体験)をしたいか (3つまで回答 n=134)**

○どんな体験をしたいかについては、「収穫体験」(30件)が最も多く、ついで「家庭菜園」(26件)となりました。「経験したくない」は16件と約1割を占めています。



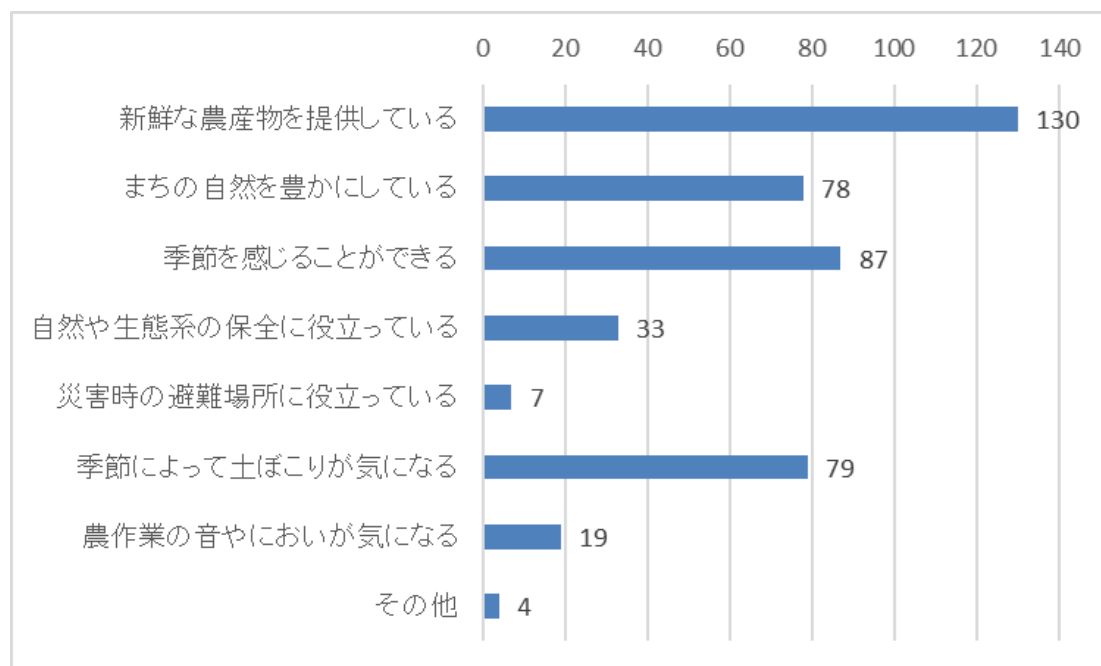
**Q19.【自由意見】農業によりふれあうことができる機会をつくるために、どのようなことがあるとよいか**

○以下の意見があった（事務局にて一部抜粋・編集）

- ・朝市・イベント・ファーマーズマーケットの開催
- ・野菜の試食会、収穫体験の実施
- ・学校教育の場で種まきから収穫を体験し、収穫した野菜を保護者と一緒に調理する。そして生産者の話を皆で聞く。
- ・自分で農作物をすることで初めて農業の大変さ・ありがたさに気づける。家庭菜園や小さな農園の講座（農家が先生）があるといい。
- ・農業体験農園や市民農園の存在を知らなかったなので、もっと周知してほしい。
- ・農家と地域住民（転入した人など）の交流会

**Q20.市の農業・農地について感じること（3つまで回答 n=437）**

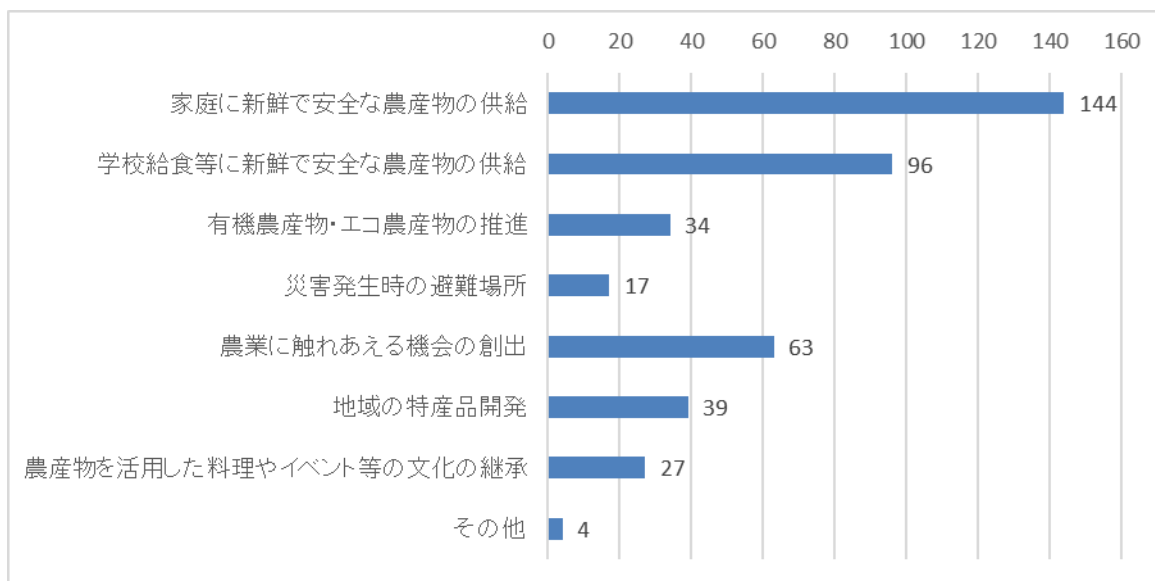
○農業・農地について感じることについては、「新鮮な農産物を提供している」（130件）が最も高く、ついで「季節を感じる事ができる」（87件）となっています。一方で「季節によって土埃が気になる」（79件）といった意見もあります。



その他回答:農地が年々減っている

**Q21.市の農業・農地になにを期待するか（3つまで回答 n=424）**

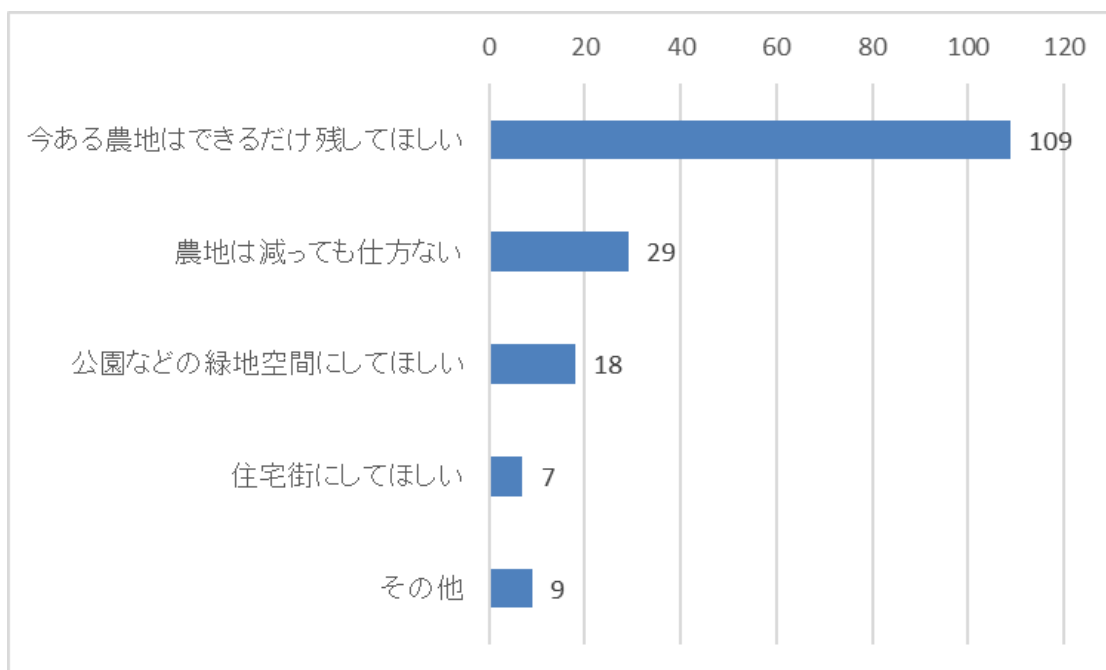
○市の農業・農地になにを期待するかについては、「家庭に新鮮で安全な農産物の供給」（144件）と最も多く、ついで「学校給食等に新鮮で安全な農産物の提供」（96件）となりました。



その他回答:畑を減らさない、近所へ迷惑をかけない配慮が必要

**Q22. 農地が減少傾向にあるが、市内農地についてどう考えるか (n=172)**

○市内の農地についてどう考えるかについては、「今ある農地はできるだけ残してほしい」(109件)が多くを占めました。ついで「農地は減っても仕方ない」(29件)、「公園などの緑地空間にして欲しい」(18件)となりました。



その他意見:休耕地が多いので有効活用ができるよう所有者と意見交換が必要。

農地をスーパーやコンビニにしてほしい

農地は分散せず集合させてほしい

Q23. 【自由記述】清瀬市の農業を守るために、消費者として何ができるか

○以下の意見があった（事務局にて一部抜粋、編集）

- ・意識して清瀬産野菜を購入する。
- ・清瀬産野菜の魅力を友人・知人に伝える
- ・農地のもつ役割、必要性を後世に伝える
- ・農業が衰退したときのデメリットを考える
- ・消費者の意識改革と同様に、農家の意識改革も必要なのではないか(土埃や土砂流出をなるべく抑えるなど)。
- ・清瀬市の農業を守るメリットや必要性がわからない。

Q24. （自由記述）市民に清瀬産農産物を「もっと買いたい」と思ってもらえるためには、どのようなことがあるといいか。

○以下の意見があった（事務局にて一部抜粋、編集）

- ・共同直売所を増やす。個人直売所は場所が分かりづらかったり、物が売り切れてしまう。
- ・勤め人が買えるように、夜間や駅前・保育園など特設で販売所を作ってほしい(東村山では保育園で野菜を売っている)
- ・ファーマーズマーケットや農家レストラン、カフェを設置する
- ・野菜の種を配布
- ・贈答用にできる生産物・加工品をつくる
- ・今後は農薬や除草剤を気にする人が多くなるので、やや高くてもタグなどで「体にやさしい」とPRして「清瀬の野菜は良い！」と思えるようなマーケティングが良いのではないか。
- ・野菜収穫体験、農業体験教室があるといい。
- ・農業まつりに加え、地域で芋煮大会のようなイベントがあるといい
- ・学生などとコラボした野菜レシピの提案
- ・個人直売所の場所をもっと周知してほしい。
- ・商工業との積極的な連携。今のやり方はうまくない。
- ・午前中で直売所の品がなくなり、所沢の方に行ってしまう。品数がもう少しあるとうれしい。
- ・分かりやすいキャッチコピー、ブランドイメージがあるといい。そしてそれを使用したカフェやレストランがあるといい。
- ・特産品やブランドを確立し、どの農家も同一の特産品やブランド品を生産する。生産量が上がり、市がバックアップしてプロモーションを行い、知名度を上げることで、需要が生まれ、結果的に生産者が続けるための収入やモチベーションに繋がるのではないか。
- ・コンビニやスーパーの一角に、清瀬産農産物を使用した惣菜コーナーがあるといい。
- ・農家の想いを動画にして YouTube や SNS で配信してほしい。顔写真だけでは伝わらない。
- ・西友の清瀬野菜売り場を広げる。